

がん化学療法レジメン

対象疾患	レジメン名		
多発性骨髄腫	Ld(L: レナリドミド+d: デキサメタゾン)療法		
FNリスク	不明	催吐リスク	最小度

申請日	2021/1/28
申請医師名	今村朋之
確認医師名	佐藤昌彦
登録日	2021/1/28
改訂日	

Rp	薬剤名 (対応する先発医薬品名)	投与量	投与法	投与時間	投与日	危険度 (分類)
Rp.1	デキサメタゾン(レナデックス)	40mg/body	内服		[再発または難治性] (1～4コース目)d1～4、 d9～12、d17～20 (5コース目以降)d1～4 [未治療] d1、8、15、22	—
Rp.2	レナリドミド(レブラミド)	25mg/body	内服	1日1回	d1～21	I (細胞)

1コース					28日				総コース数										疾患進行まで									
[再発または難治性](1～4コース目)																												
Rp	d1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
1	●	●	●	●					●	●	●	●					●	●	●	●								
2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
[再発または難治性](5コース目以降)																												
Rp	d1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
1	●	●	●	●																								
2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
[未治療]																												
Rp	d1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
1	●							●							●							●						
2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							

特記事項

- 投与上の注意点
 - ・ デキサメタゾンは適宜調節可。
 - ・ レナリドミドは高脂肪食摂取後の投与によってAUC及びCmaxの低下が認められることから、高脂肪食摂取前後を避けて投与することが望ましい(朝食後投与が良いだろう)。
- 副作用予防
 - ・ レナリドミドによる静脈血栓症の薬物的予防法としてアスピリン、未分画ヘパリンやワルファリンが推奨される。

- 減量基準
 ≪レナリドミド≫
 ≪共通≫
 腎機能障害

CCr(ml/min)	処置
60<	1日1回25mg
30～60	1日1回10mg
15～30	1回15mg 1日おき
<15	1回5mg (透析日は透析後)

その他	処置
Grade3又は4の副作用 (血小板減少又は好中球減少を除く)	休薬あるいは中止

[再発または難治性]

[1]. 血小板減少

症状	処置
30,000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 その後30,000/mm ³ 以上に回復した場合には、本剤15mgを1日1回投与で再開。
休薬2回目以降、再度30,000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 その後30,000/mm ³ 以上に回復した場合には、本剤を前回投与量から5mg減量して1日1回で再開。

[2]. 好中球減少

症状	処置
1,000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 1) 1,000/mm ³ 以上に回復(ただし、副作用は好中球減少のみ)した場合には、本剤25mgを1日1回投与で再開。 2) 1,000/mm ³ 以上に回復(ただし、好中球減少以外の副作用を認める)した場合には、本剤15mgを1日1回投与で再開。
休薬2回目以降、再度1,000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 その後1,000/mm ³ 以上に回復した場合には、本剤を前回投与量から5mg減量して1日1回で再開。

[未治療]

[1]. 血小板減少

症状	処置
25,000/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 その後50,000/mm ³ 以上に回復した場合には、本剤を休薬前の投与量から5mg減量して再開。 なお、休薬前の投与量が5mgの1日1回投与の場合は、本剤2.5mgを1日1回投与で再開。

[2]. 好中球減少

症状	処置
500/mm ³ 未満に減少	本剤を休薬する。 1,000/mm ³ 以上に回復した場合には、本剤を休薬前の投与量から5mg減量して再開。 なお、休薬前の投与量が5mgの1日1回投与の場合は、本剤2.5mgを1日1回投与で再開。

➤ その他

・ レナリドミドの使用については、胎児への曝露を避けるため、Revmateを遵守すること(医薬品の安全使用のための業務手順書特殊薬参照)。

参考文献

- ・ 日本臨床腫瘍薬学会, がん化学療法レジメンハンドブック改訂第6版
- ・ レブラミドカプセル添付文書
- ・ レブラミドカプセル適正使用ガイド
- ・ 日本血液学会, 造血器腫瘍ガイドライン2018